



小田原男声合唱団

第53回定期演奏会



「賢治断章」の各詩関連の「春と修羅」
＜復刻版 団員撮影＞



「雨」Ⅲ.雨の日の遊動円木のコラージュ
＜フリーフォトより＞



「宮崎駿アニメ映画音楽集」3.となりのトトロ
＜スコジブリ提供＞

2024年11月22日（金）
17時15分開場 18時00分開演
小田原三の丸ホール大ホール

後援 小田原市
小田原市教育委員会
小田原箱根商工会議所
日本男声合唱協会（JAMCA）
神奈川男声合唱協会（KAMCA）
湘南合唱連盟
小田原地区合唱連盟



第52回定期演奏会より

♪ ご挨拶 ♪

本日は、小田原男声合唱団第53回定期演奏会にご来場いただきまして誠にありがとうございます。

1972年5月16日に第1回定期演奏会を開催してから、毎年定期演奏会を積み重ねてまいりました。

そして、創立53年の本年、第53回定期演奏会を迎えることができました。これもひとえに本日お越しいただきました皆様をはじめ関係各位の御理解と御支援の賜物と心より感謝申し上げます。

今年の小田原の演奏活動は、5月12日の第71回湘南合唱祭（三の丸ホール）にはじまり、10月6日の第57回小田原市民合唱祭（三の丸ホール）、10月27日の神奈川男声合唱協会演奏会（鎌倉芸術館）を経て、本日の定期演奏会へと繋いでまいりました。

本日の第1ステージの多田武彦作曲の男声合唱組曲「雨」につきましては、記念すべき第1回定期演奏会で演奏され、その後東芝EMIからLPが発売され、音楽の友社「レコード芸術」の新譜評で畑中良輔先生から高い評価を受けた名曲です。

第2ステージの男声合唱とピアノのための「賢治断章」は、若くして亡くなった最愛の妹への想いを綴った宮沢賢治の心の奥にある光景を皆様の心にお届けできればと思います。

第3ステージは「宮崎駿アニメ映画音楽集第1&第2集」です。この音楽集は、2006年第35回の記念定期演奏会に信長貴富先生に小田原が委嘱した曲「さんぽ」と「いつも何度でも」が含まれております。前者は「となりのトトロ」の、後者は「千と千尋の神隠し」の主題歌です。いずれの曲も口ずさみたくなる曲です。どうぞ客席から口ずさんでいただければと思います。



小田原男声合唱団
団長 杉本 健二

さて、小田原男声合唱団が理事団体をつとめます日本男声合唱協会（JAMCA）は、2025年4月20日（日）「第25回日本男声合唱協会『JAMCA小田原』演奏会」を1990年以来35年ぶりに、ここ小田原三の丸ホールにて開催いたします。全国から小田原に結集する300名に及ぶ男声合唱団員の演奏を是非この会場でお聴きいただければ幸いです。

これまで時に厳しく、時に優しく、常に熱心にご指導いただきました辻秀幸先生、村田雅之先生、中根希子先生、杉山範雄先生にこの場をお借りしまして心から感謝の意を表する次第です。

最後になりましたが、コロナ禍以来、合唱活動を取り巻く状況が大変厳しかった時も、私たち小田原の活動に御理解と御協力をいただきました関係の皆様、そして、なによりもご家族の皆様にご心より感謝申し上げます。

♪ プ ロ グ ラ ム ♪

I 男声合唱組曲 「雨」

～ワンステージメンバーを迎えて

伊藤 整・大木 惇夫・八木 重吉 作詩
多田 武彦 作曲
指揮 村田 雅之

- I 雨の来る前
- II 武蔵野の雨
- III 雨の日の遊動円木

- V 雨の日に見る
- VI 雨

II 男声合唱とピアノのための 「賢治断章」

宮沢 賢治 作詩 なかにしあかね 作曲
指揮 辻 秀幸 ピアノ 中根 希子

- I 青ざめたそらの夕がたは
- II もう寂しくないぞ
- III 永久におまへたちは

- IV どうしてそんなに
- V そらいつぱいの

————— 休 憩 —————

III 男声合唱のための 「宮崎駿アニメ映画音楽集第1・2集」

信長 貴富 編曲
指揮 辻 秀幸 ピアノ 中根 希子

(第1集)

- 1. もののけ姫
- 2. 君をのせて
- 3. となりのトトロ

(第2集)

- 1. さんぽ
- 2. いつも何度でも
- 3. めぐる季節
- 4. やさしさに包まれたなら
- 5. さんぽ(finale)

※ワンステージメンバー：第Iステージ（ワンステージ）に限り参加いただいている協演メンバー

許可なく「写真・動画撮影」「録音」などはできません

I 男声合唱組曲「雨」 伊藤整・大木惇夫・八木重吉作詩 多田武彦作曲

男声合唱を愛好する者にとって、多田武彦の作品は、最も多く演奏したことがあるのではないだろうか。その中でも、「雨」は、多田武彦のデビュー作である「柳河風俗詩」と並び、演奏される機会が多い作品である。私たち小田男においても、第1回、4回、19回、42回の定期演奏会で演奏している。また、1975年（昭和50年）には、当時の常任指揮者であった福永陽一郎指揮で東芝EMIレコード「現代合唱シリーズ」に、この「雨」をレコーディングしている。

さて、この「雨」であるが、最初から組曲として出来上がったわけではなかった。1960年（昭和35年）に全日本合唱コンクール（男声合唱の部）の課題曲として「雨の来る前」の1曲が作曲されている。その後、明治大学グリークラブの委嘱を受け、1967年（昭和42年）全6曲の組曲として外山浩爾（前 小田原男声合唱団常任指揮者）指揮で初演された。外山先生には小田男第42回定期演奏会でこの「雨」を指揮していただいている。

作曲者の多田武彦（1930～2017）は大阪で生まれ、京都大学男声合唱団で学生指揮者として活躍し、大学卒業後は大手都市銀行に就職している。銀行員としての傍ら日曜作曲家として（銀行員としての日曜作曲家では『小椋佳』も有名である）数多くの合唱曲を作曲した。その作品は、合唱組曲だけで113作品、そのうち男声合唱組曲は95作品に上がる。晩年は小田原にも近い藤沢市、平塚市に居を構えていた

多田武彦先生（私たちは、親しみを込めて『タダタケ』と呼ぶことが多い）と小田男は深いお付き合いをさせていただいた。

まず、1991年（平成3年）の第20回定期演奏会では、多田先生に「柳河風俗詩」の指揮をお願いし、作曲家自らの指揮で歌えるという喜びを得た。また、2001年（平成13年）第30回定期演奏会には、委嘱作品をお願いし「西湖の風雅」を作曲していただいた。その後も2006年「冨寒小景」2008年「四季点綴」2011年「遠治の旅情」と4曲の男声合唱組曲の委嘱をお願いした。

「雨」の作曲にあたり、多田先生は次のように記している。『雨は、人間にとって、ずいぶんと親しい間柄である。そのうっとおしい自然現象は、昔から人間にいろいろな孤独感や悲哀感をあたえてきた。同時に、雨が上がるときの、あの清らかなすがすがしさをも、しみじみと心につたえてくれてきて。そういう、さまざまな雨と、そのときどきの人間の心との交流を主題にして、私は、この作品を、心をこめて書いてみた。』

このような作曲者の思いで出来上がった組曲である。発表された当初は「雨の来る前」「武蔵野の雨」「雨の日の遊動円木」「十一月にふる雨」「雨の日に見る」「雨」の6曲であったが、1982年（昭和57年）に4曲目の「十一月にふる雨」が「雨 雨」に差し替えられている。これは、堀口大学の詩である「十一月にふる雨」に、当時は差別用語と指摘される語彙が含まれていたことから、作曲家自らの意向により改訂された。

本日の演奏では、差し替えられた「雨 雨」を割愛して演奏する。

I 雨の来る前 作詩/伊藤整

組曲の1曲目として、軽快なテンポで始まり、適度な速度の変化も含み、力強さも感じる曲である。夏の夕立を待ち望む気持ちから始まり、中間部では、夏の午後のだるい気分を感じさせ、終盤では、夕立がやってきた爽快さをも感じさせる。

II 武蔵野の雨 作詩/大木惇夫

この曲を作るにあたり、作曲者は自ら武蔵野に取材に出かけている。この時のことを多田は次のように述べている。「昔、ギリシャでは、心をこめて創作をおこなうときには『芸術の神・ミューズ』が作者の心に宿るといわれていたそうであるが、第2曲の『武蔵野雨』を書くために、武蔵野の奥深く取材に出かけたとき、私は、私の心にミューズが宿るのをおぼえた。」

秋の夜に、静かに降る雨をゆったりとしたテンポと、優しく、印象的なメロディーで表されている。

III 雨の日の遊動円木 作詩/大木惇夫

公園では、今はほとんど見かけなくなった「遊動円木」。秋の昼下がりの誰もいない公園。そこに雨に濡れて動いていない「遊動円木」。しかし、この曲では2：1の長さで変化をつけた3連符のリズムで、いかにも遊動円木が動いているように感じさせている。作曲者は「人のいない雨の日の児童公園のつめたい風情のなかに、人間の孤独感をにじませ・・・」と述べている。

V 雨の日に見る 作詩/大木惇夫

夏から始まった、この組曲も、この曲で冬を迎える。この曲では『ザボン』という言葉が大きな要素となっている。冬の雨の日に見る「ザボン」。なかなか想像しがたい情景である。この曲について多田は「冬の雨の日の、あのもやのかかったような冷気を通して、孤独感や悲哀感のうちひしがれた主人公が、庭に見事に実ったザボン——ある人にとっては、それは到底実現しそうな輝かしい理想であり、ある人にとっては、それは手のとどかないところにいる恋人であるが——と離れてじっと座っている姿を浮き彫りにし」と述べている。曲は、力強く、輝かしい響きのエンディングとなっている。

VI 雨 作詩/八木重吉

この組曲の中で、もっとも単独で歌われることが多い曲ではないだろうか。

16小節の同じようなメロディーが3回繰り返されるが、それぞれが歌詞と見事に調和しており、天に昇るような印象的なエンディングである。なお、この曲について多田は「悩みや苦しきから昇華し切った主人公が、溢れ出ようとする涙をおさえて、しみじみうたい、終わる曲想とした。

『武蔵野の雨』で私に心に宿ったミューズは、この作品を書いているあいだ、私の心の中にいたが、終曲がなり終わると同時に消えていった。私はこの曲ができあがったとき、『今後いつでも作曲の筆を折ってもよい』と思ったし、とりわけ第6曲『雨』は私の臨終における鎮魂曲として、私の心の奥深く刻みこまれてしまった。」と述べている。

余談になるが、来年4月小田原にて開催する「JAMCA小田原」演奏会は第25回を迎えるが、2013年の第21回「JAMCA信州」演奏会（長野県岡谷市にて開催）では、参加者の記念品として、この終曲の「雨」をオルゴールにして希望者に販売された。合唱曲がオルゴールになることは非常に稀であった。

（解説：T1斎藤恵司

参考：小田原男声合唱団第1回定期演奏会プログラム等）

♪ 曲 目 解 説 ♪

Ⅱ 男声合唱とピアノのための「賢治断章」 宮沢賢治 作詩 なかにしあかね 作曲

作詩者、宮沢賢治(みやざわ けんじ)は詩人、童話作家で、1896年8月岩手県花巻川口町(現花巻市)に生まれた。彼の作品は生前には一般にはほとんど知られず無名に近く、没後草野心平らの尽力により作品群が広く知られた。生前に刊行された唯一の詩集としては「春と修羅」、同じく童話集としては「注文の多い料理店」があり、生前に投稿・起稿した作品には「やまなし」「グスコブドリの伝記」などがある。

賢治の作品世界を覆っているのは、作者自らの裕福な出自と郷土の農民の悲惨な境遇との対比が生んだ贖罪感や自己犠牲精神である。更に幼い頃から親しんだ仏教の強い影響を受けている。晩年には遺作「銀河鉄道の夜」にみられるようなキリスト教的な救済信仰をも取り上げ、全人類への宗教的寛容に達して居たことが垣間見られる。

賢治は音楽にも深い関心を持って居り、暇を見つけてはレコードを買っていた。農学校教員時代に20数曲を作詞し、その内8曲を作曲したと言われる。(以上 ウィキペディア「宮沢賢治」による)

作曲者、なかにしあかねは、東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ大学院にて作曲修士号、キングスカレッジ大学院にて作曲博士号を修める。第66回日本音楽コンクール作曲部門第一位及び安田賞受賞、国際フランツ・シューベルト作曲コンクール入賞他、入選多数。海外の多くの演奏家・放送局などにより作品が紹介されている。

作曲家・演奏家双方の立場からの「言葉と音楽」についての研究を続け、歌曲伴奏者としても充実した活動を行っている。現在、神戸女学院大学音楽学部、同大学院教授。日本作曲家協会、日本現代音楽協会、日本音楽著作権協会会員。

(以上 ラ・カンパネラ30周年記念コンサートプログラムの抜粋)

賢治断章は宮沢賢治の5つの詩に作曲されているが、その多くは「補遺」「下書稿」「先駆形」など通常では採用が考えられないものである。これについて作曲者のなかにしあかねは次のように言っている。「通常であれば、完成形に至るまでの下書きが後世の人間の目に触れるなど考え難いことであろうが、賢治作品の場合「完成形などない」創作姿勢と広く深く作品研究が蓄積されてきた恩恵によって、下書稿、先駆形迄もが、我々の手の届くところにある。生前発表に至らなかった言葉、後に推敲され零れ落ちてしまった言葉の端々に驚くほどのみずみずしさと、新鮮で率直な「心象」が語られている」

(楽譜「賢治断章」の冒頭の言葉)。

5曲のタイトルは、作曲者によって付けられている。

I. 青ざめたそらの夕がたは

「春の修羅」補遺の「自由画検定委員」(1923年)の最終節。「自由画検定委員」は6つの数行程度の短編から成っているが、相互の関連は見いだせない。「うさぎうま」は、賢治の童話「馬の頭巾」では、主人公甲太がかわいがる少し足の不自由な馬に、母親が作ってくれた服を着せたところ、耳が垂れ下がって子供達に笑われるが、「うさぎ馬だよ」と甲太が言うと、子供達も納得する。但し、この詩との関連は不明。

II. もう寂しくないぞ

「春の修羅」の22番目に載っている長篇詩「小岩井農場」の下書稿(先駆形A)の一節で、本稿には載っていないが、パート4の後半に相当する。「小岩井農場」は大正11年(1922年)賢治26歳の時の農場を歩行しながら「心象スケッチ」したものである。しかしこの長篇詩が「春の修羅」に収められる迄、即ち定稿になるまで幾多の推敲がくりかえされたようで、何段階かの下書稿が残されている。この詩もその一つであるが、定稿には「寂しい」の文字は無い。

「小岩井農場」の書き出しは「わたしはずいぶんすばやく汽車からおりた そのために雲がぎらっとひかっただけだ」であるが、これは橋場線小岩井駅から農場まで約20kmをこれから歩こうとする賢治の気概が「すばやく」の言葉に表れている。

因みに小岩井農場の創業は明治24年(1891年)で賢治の誕生の5年前になる。小岩井駅の開業は大正10年(1921年)5月でこの「心象スケッチ」の前年である。

III. 永久におまへたちは

「春の修羅」補遺「宗谷挽歌」の最終節。「あんなに始終つけて置かないのは、」で原稿(数枚?)が失われ、この詩に繋がっている。「宗谷挽歌」は1923年7月、当時教師だった農学校生徒の就職依頼で樺太(カラフト現在のサハリン)を旅行したときの作品で、この時の作品の「青春挽歌」「樺太挽歌」「宗谷海峡」には前年に亡くなった妹トシ(詩では「とし子」)への想いが込められている。

IV. どうしてそんなに

「春の修羅」第2集156番(1924年7月)「この森を通り抜ければ」の草稿「鳥」の最終節。詩の中頃で「蛍がみだれ飛ぶ、鳥はしげくなく」のを妹の声を聞く心のざわめきとして表現している。歌詞の「どうしてそんなに」の直前の詩は「鳥は、またいっそうひどくさわぎだす」である。

なお、「春と修羅」第2集は賢治の生前には刊行されなかった。

V. そらいっぱい

「春と修羅」第2集、賢治が1926年花巻農学校を退職するときに生徒に向けて書かれた「告別」の最終稿の最終部分。最終稿では「おまへの素質と力をもってあるものは町と村との一万人中にならおそらく五人はあるだろう(中略)五年のあひだにそれを大抵なくすのだ」と生徒の技量をほめながらも、厳しい愛情、慈悲深い心、厳しさの教えが込められた力強いメッセージである。

厳しさの教えは、賢治の時代においても、現代においても同じことであろう。

参考資料：岡澤敏雄「賢治歩行詩考」、ちくま文庫「宮沢賢治全集I」、インターネット図書館「青空文庫」

(解説：B2 柳田 圭一)

♪ 曲 目 解 説 ♪

Ⅲ 男声合唱のための「宮崎駿アニメ映画音楽集第1・2集」 信長 貴富編曲

アニメーション監督・演出家であった宮崎駿は、1982年に徳間書店のアニメ情報誌に「風の谷のナウシカ」を発表した。84年には、劇場版でアニメ化されて注目を浴びた。その後、アニメ制作会社のトップクラフトを前身にした徳間書店の子会社として1985年、スタジオジブリは誕生した。

設立5年で「天空の城ラピュタ」「となりのトトロ」「火垂るの墓」「魔女の宅急便」とヒット作が続いた。2002年には、「千と千尋の神隠し」で第52回ベルリン国際映画祭で金熊賞を受賞。2004年には、第75回アカデミー賞で長編アニメーション映画賞を受賞。最新作の「君たちはどう生きるか」では、第81回ゴールデングローブ賞、第77回英国アカデミー賞、第96回アカデミー賞の長編アニメーション部門などで各賞を受賞している。

宮崎駿アニメ映画音楽集は、2003年に混声版が信長貴富により編曲された。男声版は、2004年にお江戸コラリアーズによって「もののけ姫」「君をのせて」「となりのトトロ」が初演された。

2005年にこれら3曲が第1集としてカワイ出版から発刊された。2006年には、「さんぽ」「いつも何度でも」が小田原男声合唱団の信長への懇願で男声版として生まれ、第35回定期演奏会にて初演された。その後、第1集に続いて残り5曲が、第2集として編纂され2007年にお江戸コラリアーズが第6回演奏会「信長貴富作品展～いろとりどりのうた～」で初演された。その時の指揮は、小田原男声合唱団の指揮者でもある村田雅之だった。

信長貴富は、1994年上智大学文学部教育学科卒業。世田谷区役所職員を経て、1997年に作曲家・編曲家として独立。95年・99年にはアサヒ作曲賞（合唱曲）、98年奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第1位、2001年日本音楽コンクール作曲部門（室内楽曲）第2位などを受賞している日本を代表する作曲家・編曲家である。小田原男声合唱団とも関係は深く、男声合唱とピアノのための「わが詩友」、男声合唱組曲「わきめもふらず。ジグザグに。」などの委嘱曲もお願いしている。

<第1集>

1. もののけ姫 作詞/宮崎駿 作曲/久石譲

1997年7月公開の「もののけ姫」の主題歌。カウンターテナーの米良美一のメロディーラインが印象的である。米良のデビューシングルがこの曲である。神秘的なもののけ姫の世界観を見事に反映していた。男声合唱では、B.O.=Bouche ouverte（口を開けたハミング）、B.F.=Bouche fermée（口を閉じたハミング）やAーといった擬声語を組み合わせて、森深く潜むもののけたちを表現している。

2. 君をのせて 作詞/宮崎駿 作曲/久石譲

監督の宮崎駿が小学生の時に、想像していた作品である「天空の城ラピュタ」は、1986年8月に公開された。当初、子供向けに制作されたが、実際は、大人の鑑賞に十分耐えうる作品に仕上がった。スタジオジブリになっての初作品である。この曲は、井上あずみがエンディングテーマとして歌った。カラオケでもよく歌われる曲である。ラピュタは、スウィフトの「ガリバー旅行記」に出てくる「ラピュタ王国」から採られたものだ。暗闇の宇宙に浮かぶ地球。しかし、たくさんの生命を抱きながら力強く回り、さらに未来へ。そんな地球に想いを馳せて・・・。

3. となりのトトロ 作詞/宮崎駿 作曲/久石譲

我が家（野口）には、かつて二匹のメス猫がいた。名前は、サツキとメイ。この映画から採らせてもらった。エンディング主題歌であるこの曲は、君をのせてと同じく井上あずみが歌った。公開は、1988年4月。当時、子どもたちはトトロに夢中になった。ネコバス、まっくろくろすけなどは、今でも人気のあるキャラクターたちである。三鷹の森ジブリ美術館、愛知県の愛・地球博記念公園（モリコロパーク）内にあるジブリパークでもサツキとメイの家などが大人気である。スタジオジブリのシンボルマークには、トトロが使用されている。男声合唱曲としては、トトロ・トトロ・トトロ・・・と畳みかけるアレンジがされ、大・中・小のトトロが踊っている。歌う側としては、最も苦勞した部分でもある。

<第2集>

1. さんぽ 作詞/中川李枝子 作曲/久石譲

となりのトトロの主題歌がさんぽである。子どもたちが楽しそうに元気に歩く様子が目に浮かぶようなマーチ調の歌である。さて、孫というよりもひ孫たちが歌う曲を団員たちは、元気に歌えるかやや心配なところだが、そこは勇気と経験で乗り切っていただきたいところだ。この曲も井上あずみが歌った。第2集のスタートそして締めくくりもさんぽ（finale）によって元気に楽しく構成されている。

2. いつも何度でも 作詞/覚和歌子 作曲/木村弓

2003年3月の公開映画「千と千尋の神隠し」の主題歌。歌は、作曲者の木村弓（ゆみ）が担当している。ライヤーという堅琴を弾きながら歌う。歌詞の2行目までは木村自身が考えたようだが、次が出てこなくて友人の覚和歌子に仕上げてもらったという。ライヤーをピアノによって表現した後に素朴で静かなセカンドテナーが、歌い始める。

3. めぐる季節 作曲/久石譲

主人公のキキが知らない町で魔女として一人立ちしていく物語である。13歳の春の満月の夜、黒猫のジジとともに親元を離れたキキは、コリコという見知らぬ町のグーチョキパン屋に居候し、その小屋を改装して「魔女の宅急便」を開業。様々なことを経験して成長していく。曲は、歌詞なしの全編スキヤットでアレンジされた。元々の歌は、井上あずみが歌っている。1989年7月公開の映画だ。

4. やさしさに包まれたなら 作詞・作曲/荒井由実

ユーミンこと荒井由実のセカンドアルバム「ミスリム」（1974年）の中に収録されていた曲だが、「魔女の宅急便」の挿入歌になったことで映画公開時にシングルカットされた。50年も前の曲だが、軽快な中に切なさを滲み込ませた曲だ。今でも色褪せないユーミンの凄さを感じさせる。TV-CMにも採用されて放映されているから馴染み深い曲であろう。「目にうつるすべてのことはメッセージ」というエンディングへの盛り上がりも素敵だ。

（解説：B1野口吉昭 参考：スタジオジブリのホームページ、カワイ出版の楽譜の信長氏の巻頭言など）

小田原男声合唱団第54回定期演奏会 2026年5月を予定

I 男声合唱組曲「雨」

I 雨の来る前 作詩/伊藤整

ざあっとやってこいよ 夏の雨
 地上のすべてのものは用意している。
 山の麓から低くかぶさってしまった雲よ。
 夏の緑はうす暗い蔭におおわれ
 物ほしに白いものがかかり
 燕は黒く曇天の下を飛び交い
 人は重い頭をして室にいる。
 降って来いよ 夏の夕立
 その時 始めて人の目はほっと開かれ
 草木も葉を そよがせるのだ。

伊藤 整 「雪明りの路」所収

II 武蔵野の雨 作詩/大木惇夫

群鳥（むらどり）を追いながら
 どの土地を濡らしにゆく
 月の夜ごろを掠める（かす）雨
 櫟（くぬぎ）の匂いのふんとする雨
 武蔵野の雨

大木惇夫 「風・光・木の葉」所収

III 雨の日の誘導円木 作詩/大木惇夫

雨の日の遊動円木
 びしょびしょ濡れて、ただ光って、
 動くは低い雲ばかり。

雨の日の遊動円木
 鐘が鳴っても 晝やすみでも、
 ゆずぶるものは 風ばかり。

雨の日の遊動円木
 落ちる銀杏葉、ゆうかりの葉
 雀が吹かれて、乗るばかり。

雨の日の遊動円木
 びしょびしょ濡れて、もう日も暮れて
 八つ手の花が、見ているばかり

大木惇夫「秋に見る夢」所収

V 雨の日に見る 作詩/大木惇夫

冬、ほのぐらい雨の日は
 ザボンが輝く、
 ザボンが・・・・・・
 これは、眼をひらいて見る夢なのか。

街燈は ぬれている、
 泥靴は喘（あえ）いでいる、
 風は雀をふっ飛ばしている。
 人間の後姿はいそいでいる、
 歌は絶えている、
 電線は ひきつっている、
 枯木はふるえている、
 わたしの身体は凍えている
 わたしは祈りをわすれている。
 そうして、わたしはただ見る、
 ほのぐらい雨の影のなかに
 ぼっかりザボンの浮かぶのを かがやくのを。

大木惇夫「危険信号」所収

VI 雨 作詩/八木重吉

雨のおとが きこえる
 雨がふっていたのだ。

あのおとのように そっと世のために
 はたらいていよう。

雨があがるように しずかに死んでゆこう。

八木重吉遺稿（後「定本八木重吉詩集」に所収）

II 男声合唱とピアノのための「賢治断章」

I. 青ざめたそらの夕がたは

青ざめたそらの夕がたは
 みんなはいちれつ青ざめたうさぎうまにのり
 きらきら金のぼらのひかるのはらを
 犬といっしょによこぎって行く
 青ざめたそらの夕がたは
 みんなはいちれつ青ざめたうさぎうまにのり

II. もう寂しくないぞ

もう寂しくないぞ
 誰も私の心もちを見て呉れなくても
 私は一人で生きて行くぞ。
 こんなわがまゝな魂をだれだって
 なぐさめることができるもんか。
 けれどももやっぱり寂しいぞ。
 口笛を吹け。

III. 永久におまへたちは

永久におまへたちは地を這うがいい。
 さあ、海と陰湿の夜の（そらとの）鬼神たち
 私は試みを受けよう。

（ ）内は付曲されていない。

IV. どうしてそんなに

どうしてそんなにさわぐのか
 はやしのなかは蛍もこんなにみだれて飛ぶし
 みなみぞらでは星もときどき流れるだらうが
 しずかにやすんで
 かまわないのだ

V. そらいっぱい

もしもおまへが
 よくきいてくれ
 ひとりのやさしい娘をおもふやうになるそのとき
 おまへに無数の陰と光の像があらはれる
 おまへはそれを音にするのだ
 みんなが町で暮らしたり
 一日あそんでみるときに
 おまへはひとりであの石原の草を刈る
 そのさびしさでおまへは音をつくるのだ
 多くの侮辱や窮乏の
 それらを囁んで歌うのだ
 もしも楽器がなかったら煙たなびくとまよこそ
 いゝかおまへはおれの弟子なのだ
 ちからのかぎり
 そらいっぱい
 光でできたパイプオルガンを弾くがいい

Ⅲ 男声合唱のための「宮崎駿アニメ映画音楽集第1・2集」

<第1集>

1. ものけ姫 作詞/宮崎駿

はりつめた弓の ふるえる弦(つる)よ
月の光にざわめく おまえの心

とぎすまされた刃(やいば)の美しい
そのきっさきによく似た そなたの横顔
悲しみと怒りにひそむ まことの心を知るは
森の精 ものけ達だけ ものけ達だけ

2. 君をのせて 作詞/宮崎駿

あの地平線 輝くのは
どこかに君をかくしているから
たくさんの灯(ひ)がなつかしいのは
あのどれかひとつに、君がいるから

さあ でかけよう ひときれのパン
ナイフ、ランプ かばんにつめこんで

父さんが残した 熱い想い
母さんがくれた あのまなざし

地球はまわる 君をかくして
輝く瞳 きらめく灯(ともしび)
地球はまわる 君をのせて
いつかきっと出会う ぼくらをのせて

父さんが残した 熱い想い
母さんがくれた あのまなざし

地球はまわる 君をかくして
輝く瞳 きらめく灯(ともしび)
地球はまわる 君をのせて
いつかきっと出会う ぼくらをのせて

3. となりのトトロ 作詞/宮崎駿

トトロ トトロ トトロ トトロ
だれかが こっそり
小路(こみち) 木(こ)の実 うずめて

ちっさな芽 生えたら 秘密の暗号
森へのパスポート
すてきな冒険はじまる
となりのトトロ トトロ トトロ トトロ
森の中に むかしから住んでる
となりのトトロ トトロ トトロ トトロ
子供のときにだけ あなたに訪れる
不思議な出会い

雨ふり バス停
ズブヌレ オバケがいたら
あなたの雨ガサ さしてあげましょ
森へのパスポート
魔法の扉 あきます
となりのトトロ トトロ トトロ トトロ
月夜の晩に オカリナ吹いてる
となりのトトロ トトロ トトロ トトロ
もしも会えたなら すてきな しあわせが
あなたに来るわ

トトロ トトロ トトロ トトロ
森の中に むかしから住んでる
となりのトトロ トトロ トトロ トトロ
子供のときにだけ あなたに訪れる
不思議な出会い

トトロ トトロ トトロ トトロ
トトロ トトロ トトロ トトロ

<第2集>

1. さんぽ 作詞/中川李枝子

あるこう あるこう わたしはげんき
あるくの だいすき どんどんいこう

さかみち トンネル くさっぱら
いっぽんばしに でこぼこじやりみち
くものすくぐって くだりみち

あるこう あるこう わたしはげんき
あるくの だいすき どんどんいこう

みつばち ぶんぶん はなばたけ
ひなたにとかげ へびはひるね
ばったがとんで まがりみち

あるこう あるこう わたしはげんき
あるくの だいすき どんどんいこう

きつねも たぬきも でておいて
たんけんしよう はやしのおくまで
ともだちたくさん うれしいな
そもだちたくさん うれしいな

2. いつも何度でも 作詞/覚和歌子

呼んでいる 胸のどこか奥で
いつも心踊る 夢を見たい

かなしみは 数えきれないけれど
その向こうできっと あなたに会える
繰り返すあやまちの そのたび ひとつは
ただ青い空の 青さを知る
果てしなく 道は続いて見えるけれど
この両手は 光を抱ける

さよならのときの 静かな胸
ゼロになるからだが 耳をすませる

生きている不思議 死んでいく不思議
花も風も街も みんなおなじ

3. めぐる季節

この編曲では、歌詞ではなくスキヤットで歌われます

4. やさしさに包まれたなら 作詞/荒井由実

小さい頃は 神さまがいて
不思議に夢を かなえてくれた
やさしい気持ちで 目覚めた朝は
おとなになっても 奇蹟はおこるよ

カーテンを開いて 静かな木洩れ陽(こもれび)の
やさしさに包まれたなら きっと
目にうつる全てのことは メッセージ

小さい頃は 神さまがいて
毎日愛を 届けてくれた
心の奥に しまい忘れた
大切な箱 ひらくときは今

雨上がりの庭で くちなしの香りの
やさしさに包まれたなら きっと
目にうつる全てのことはメッセージ

カーテンを開いて 静かな木洩れ陽(こもれび)の
やさしさに包まれたなら きっと
目にうつる全てのことは メッセージ

第25回日本男声合唱協会 「JAMCA小田原」演奏会

合唱のマチ《小田原》に響く男たちのハーモニー



第24回日本男声合唱協会「JAMCA熊本」演奏会より

2025年4月20日（日）小田原三の丸ホール大ホール

開場 12:40 開演 13:20

チケット 2,000円（自由席）～演奏者用の席が前面にございますことをご了承ください～

オープニング

- ウェルカム合唱：小田原男声合唱団 「箱根八里」鳥居 忱作詞 滝 廉太郎作曲 林光 編曲 指揮 福井 隆
- ウェルカム演奏：ヴァイオリン 式町 水晶（小田原市在住） ピアノ 中根 希子（小田原市在住）
- 男声合唱とピアノのための「赤い鳥小鳥」北原 白秋 童謡詩集 信長 貴富 編曲より
- 「揺籠のうた・栗鼠、栗鼠、小栗鼠・赤い鳥小鳥・この道・揺籠のうた」

第Ⅰステージ

男声合唱団東京リーダーターフェル1925

「委嘱小品集より～牛深ハイヤ節・江戸木遣り・竹田の子守歌・ふるさと（室生犀星）・ハナミズキ（英語ver.）・安藤由布樹作品より など」
指揮 樋本 英一

OSAKA MEN'S CHORUS

「Sea Chanties」OSAKA MEN'S CHORUS 編曲
指揮 辻正喜 伴奏 ウミネコ楽団

第Ⅱステージ

東海メールクワイアー&やまびこ男声合唱団

男声合唱組曲「心の四季」

吉野 弘 作詩 高田 三郎 作曲 須賀 敬一 編曲 指揮 鈴木 順 ピアノ 内匠 慧

市川男声合唱団

男声合唱とピアノのための「くちびるに歌を」より他
ツェーザー・フライシュレン 作詩 信長 貴富 訳 信長 貴富 作曲
指揮 田中 安茂 ピアノ 岩撫 智子

洋光台男声合唱団

男声合唱組曲「海鳥の詩」より オロロン鳥・エトピリカ・北の海鳥
更科 源蔵 作詩 廣瀬 量平 作曲 指揮 上杉 明 ピアノ 小形 さくら

小田原男声合唱団

男声合唱組曲「わきめもふらず。ジグザグに。」
及川 均 作詩 信長 貴富 作曲 指揮 辻 秀幸 ピアノ 中根 希子

第Ⅲステージ

神奈川男声合唱協会（KAMCA）合同・

JAMCA理事団体有志合同

男声合唱組曲「富士山」

草野 心平 作詩 多田 武彦 作曲 指揮 村田 雅之

日本男声合唱協会（JAMCA）全国合同演奏

「秋のピエロ」男声合唱「月光とピエロ」より

堀口 大學 作詩 清水 脩 作曲 指揮 辻 秀幸

「大地讃頌」男声合唱のためのカンタータ「土の歌」より

大木 惇夫 作詩 佐藤 眞 作曲 指揮 辻 秀幸 ピアノ 中根 希子

男声四部合唱版「群青」

福島県南相馬市立小高中学校平成24年度卒業生（構成・小田美樹）作詞
小田 美樹 作曲 信長 貴富 編曲 指揮 辻 秀幸 ピアノ 中根 希子

後援 小田原市 小田原市教育委員会
小田原箱根商工会議所 小田原市観光協会
湘南合唱連盟 小田原地区合唱連盟

チケット前売り所（窓口販売のみ） <当日券あり 会場受付にて>
小田原三の丸ホール・小田原地下街ハルネ小田原街かど案内所・南足柄市文化会館



E-Mail : odadan1971@gmail.com
URL : <https://odadan1971.org/>



♪ Team ODADAN (先生方) のプロフィール ♪

常任指揮者 辻 秀幸

東京藝術大学声楽科及び同大学院独唱科前期修士課程修了。イタリアミラノを中心に欧州音楽遊学、各地でコンサートに出演し好評を博す。その後国内外で伊・独・日本歌曲を中心にユニークなリサイタル活動を展開。オペラではその歌唱と演技で度々新聞各紙で絶賛された。

宗教曲演奏のスペシャリストとしてもソリスト、指揮者としてその活動は常に注目を集めている。アマチュア合唱団の育成にも力を注ぎ、現在16団体の指導に関わっている。日本全国で合唱講習会・合唱祭での講師、

コンクール審査員を務める。

コーラス関係のテレビ、ラジオ番組での出演も 多く身体と共に活動の場は常に広がり続けている。

日本合唱指揮者協会会員 東京都合唱連盟理事長 東京藝術大学・洗足学園音楽大学 各講師を務める。

2016年より小田原男声合唱団の常任指揮者。

指揮者 村田 雅之

石川県白山市出身。独学で指揮・ピアノ・打楽器を始め、中学時代より吹奏楽部で指揮者、合唱部にてピアニストを務める。石川県立金沢泉丘高等学校理数科を経て、横浜国立大学工学部出身。大学在学中はグリークラブに籍を置き、1年次より学生ピアニスト、3年次には学生指揮者を務める。在学中より多くの一般合唱団や講習会に参加、合唱全般の研鑽を積み、栗山文昭、松下耕、伊東恵司の各氏から影響を強く受ける。

合唱団お江戸コラリアーズ(全日本合唱コンクール全国大会にて文部科

学大臣賞を受賞団体)、なにわコラリアーズにおいて、歌手の他、指揮、ピアノ、打楽器を担当。現在、音楽関連会社に勤務のかたわら、指揮・指導活動、アンサンブルピアニスト活動を行っている。合唱団お江戸コラリアーズ、横浜国立大学グリークラブ、男声合唱団みはるかす、男声合唱団東鶴、立正大学グリークラブなどの合唱団において、指揮・ピアニスト・アンサンブルトレーナーを務めるほか、多くの団体に客演指揮、客演ピアニストの機会も多い。

2014年にトレーナーとして小田原男声合唱団で指揮・ピアノを担当する。2016年より指揮者に就任。

ピアノ 中根 希子

小田原市出身。東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻 卒業。第3回長江杯国際音楽コンクール第2位等多数入賞。ウィーン、シカゴ等での音楽セミナーマスタークラス参加、ディプロマ取得、修了演奏会出演。植田克己、佐藤俊、ノエル・フローレスの各氏に師事。1999年ポーランド共和国大使館後援 「日本ポーランド国交樹立80周年記念及び国際シヨパン記念演奏会」に出演。2007年以降「市民による小田原音楽フェスティバル」では、小林研一郎・末廣誠・広上淳一・富澤裕・山田和樹・黒岩英

臣・佐藤眞・瀬山智博の各氏の指揮のもと、第九・モーツァルトレクイエム・ドイツレクイエム・メサイア等の演奏会でピアノアシスタントを務める。2009年ウィーンフィルメンバー、シュトイゲ弦楽四重奏団と共演、2012年・2015年小田原でソロリサイタル開催他、2013年ヴァイオリン豊嶋泰嗣、2014年小田原フィルハーモニー、天満敦子他著名人との共演、いずれも好評を博す。2021年小田原三の丸ホールに於いて、ピアノ選定に貢献、同年9月ピアノ開きソロコンサートを開催、好評を博す。

共立女子大学講師。

ヴォイストレーナー 杉山 範雄

小田原少年少女合唱隊に入隊。ルネッサンスから現代まで多くのアカペラ・アンサンブルを学ぶ。東京藝術大学音楽部声楽科を経て、これまでに、「コシ・ファン・トゥッテ」 ドン・アルフォンソ、「カルメン」エスカミリーヨ、等を演じ、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「戴冠ミサ」「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」、フォーレ「レクイエム」等、演奏会パソロにて多数出演、小泉ひろし・小林研一郎・飯森範親等、各指揮者のもと

ソリストを務める。また、合唱指導にも意欲的に取り組み、文化庁講師派遣によるワークショップ・関東各地合唱祭の講師を務める。現在、東京・神奈川を中心に指導団体は13におよぶ。小田原男声合唱団、中央区プリエール・ジュニアコーラス、桐朋学園大学音楽学部附属『子供のための音楽教室』等の歌唱指導にも取り組む。神奈川県合唱連盟副理事長。日本合唱指揮者協会会員。神奈川県文化芸術振興審議会委員。

♪ 小田原男声合唱団 2024 ♪

T 1	T 2	B 1	B 2
石井 蔵之助 (鎌倉市)	青野 幸夫 (秦野市)	上利 宏司 (小田原市)	磯田 幸男 (小田原市)
加藤 重喜 (秦野市)	白石 久司 (開成町)	網盛 一郎 (小田原市)	一色 義信 (秦野市)
斎藤 恵司 (伊勢原市)	杉本 健二 (南足柄市)	江川 卓男 (鎌倉市)	亀山 忠彦 (小田原市)
佐久間 隆弥 (大和市)	高瀬 昇次 (小田原市)	久保 友宏 (海老名市)	坂口 宗夫 (小田原市)
露木 聡 (小田原市)	福井 隆 (二宮町)	中村 敬 (南足柄市)	鈴木 壽久 (南足柄市)
中島 弘光 (南足柄市)	堀内 哲夫 (小田原市)	野口 吉昭 (横浜市)	田島 達也 (南足柄市)
水城 高嶺 (秦野市)			千葉陽一郎 (海老名市)
			廣瀬 友二 (秦野市)
			柳田 圭一 (湯河原町)

♪ ワンステージメンバー2024 ♪

T 1	T 2	B 1	B 2
加藤 哲雄 (小田原市)	田山 正弘 (伊東市)	熱田 隆純 (南足柄市)	矢野 純 (横浜市)
高山 光正 (大磯町)	津田 富士夫 (小田原市)	伊熊 雄司 (相模原市)	
中村 廣 (大磯町)		岩越 万里 (小田原市)	
		江藤 凱夫 (厚木市)	
		小西 正文 (茅ヶ崎市)	

<p>Team ODADAN (先生方)</p> <p>常任指揮者 辻 秀幸</p> <p>指揮者 村田 雅之</p> <p>ピアノ 中根 希子</p> <p>ヴォイス トレーナー 杉山 範雄</p>	<p>運営メンバー</p> <p>団長 杉本 健二 副団長/技術部長/事業部長 野口 吉昭 事務局長/会計担当 上利 宏司 団員部長 高瀬 昇次 渉外部長 露木 聡 財政監査 一色 義信</p> <p>技術部 団内指揮者 福井 隆 T1パート 斎藤 恵司 T2パート 福井 隆 B1パート 網盛 一郎 B2パート 一色 義信 顧問 斎藤 恵司 柳田 圭一 ※パート：パートリーダー</p> <p>団員部 T1 中島 弘光 T2 高瀬 昇次 B1 中村 敬 B2 田島 達也</p> <p>情報部長 千葉 陽一郎</p> <p>JAMCA担当 杉本 健二 KAMCA会長 鈴木 壽久 KAMCA担当 露木 聡 小田原地区 杉本 健二 合唱連盟担当 露木 聡</p>	<p>定演プロジェクトメンバー</p> <p>リーダー 野口 吉昭 演出 野口 吉昭 舞台 吉田 秀樹様 渉外 露木 聡 録画 稲子 紀夫様 写真 稲子 紀夫様 録音 上利 宏司 打上げ 団員部 フック・プログラム 千葉 陽一郎 斎藤 恵司 柳田 圭一 野口 吉昭 譜捲り 柏木 晶子様 アックス 永井 邦子様 受付・案内 杉本 健二・露木 聡 混声合唱団シガ'94様 混声合唱団小田原木曜会様 小田原市文化サポーター (レセプション)様</p>
---	--	--

合唱は脳活にいい！
健康にいい合唱あります！
合唱感動を一緒に！

小田原男声合唱団は、団員を募集しています

合唱経験・未経験不問！

団員大募集！

練習用の全体音源・
パート音源あります！

練習日：火曜日（週1回）18:30~20:50 日曜日（月1回）13:30~16:50

火曜日練習場所：旭丘高校 音楽室（4F）～小田原駅東口より徒歩6分

※練習日時と日曜練習場所はお問い合わせください

【ワンステージメンバー同時募集】

定期演奏会（複数ステージ）のうち1ステージ（＝ワンステージ）だけをいっしょに歌うメンバーも募集しています。
フルステージで歌う余裕のない方、でも・・・少しでも歌いたいなあ！と思われる方、
私たち小田原男声合唱団の定期演奏会のステージに立ちましょう



E-Mail : odadan1971@gmail.com
URL : <https://odadan1971.org/>



E-Mail : odadan1971@gmail.com

URL : <https://odadan1971.org/>